

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果

猪名川町教育委員会

《調査の目的》

令和5年4月18日（火）に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせします。
この調査の目的は、以下のとおりです。

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することによって、国や全ての教育委員会における教育施策の成果と課題を分析し、その改善を図る。
- (2) 学校における個々の児童生徒への教育指導や学習状況の改善・充実等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

《実施の状況》

- (1) 調査の対象 猪名川町内の小学校第6学年の全児童（6校283名）
猪名川町内の中学校第3学年の全生徒（2校283名）
- (2) 調査内容 ①教科に関する調査
小学校第6学年・・・国語、算数、
中学校第3学年・・・国語、数学、英語
②質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

《教科に関する調査について》

【調査結果の見方】

- (1) 「町平均」の数値は、令和5年度全国学力・学習状況調査において、猪名川町内の小学校6年生と中学校3年生それぞれの児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。
- (2) 「全国平均」の数値は、令和5年度全国学力・学習状況調査において、調査対象となった全国の公立小・中学校在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均値を表したものです。

■小学6年生

| 教科 | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率（公立） (%) |
|----|---------------|--------------------|
| 国語 | 65 | 67.2 |
| 算数 | 61 | 62.5 |

■中学3年生

| 教科 | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率（公立） (%) |
|----|---------------|--------------------|
| 国語 | 67 | 69.8 |
| 数学 | 47 | 51.0 |
| 英語 | 40 | 45.6 |

■小学6年生（国語）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|-------------------------------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 14 | 65 | 67.2 |
| 学習 指導 要領の 内容 | 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 5 | 69.2 | 71.2 |
| | 知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項 | 2 | 62.5 | 63.4 |
| | 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと | 3 | 67.5 | 72.6 |
| | 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと | 1 | 21.6 | 26.7 |
| | 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと | 3 | 69.6 | 71.4 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|------------|-------------------------|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 1三 (1)7 | 下線部アを、漢字を使って書き表す (いがい)。 | 44.9 | 52.8 | 3.9 | 4.8 |

1三 学習指導要領の内容の「知識及び技能」の(1)言葉の特徴や使い方に関する事項の問題。正答率の差は、-7.9ポイント。正答は「意外」だが、誤った児童は正しい漢字が思い浮かばなかった、または文脈から正しい意味を捉えきれず、同音異義語でもある「以外」の字を記入したなどが考えられる。漢字や熟語の持つ意味について正しく理解させながら言葉の学習に取り組む必要がある。

②正答率が低かった記述式の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|----------------------------------|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 1 二 | 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。 | 21.6 | 26.7 | 7.8 | 7.1 |

1二 学習指導要領の内容の「書くこと」の領域の問題。正答率は最も低く、21.6%。本設問は、【川村さんの文章】【カード④】【カード⑤】の三つの図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書き表す必要がある。

三つの図表やグラフのうち、59.3%の児童が、二つもしくは一つの内容のみを取り上げて文章をまとめていた。これらの中には、三つの情報を関連付けて捉えることができなかった児童がいたと考えられる。グラフや図表、データ等を用いて、自分の考えが伝わるように新聞やレポートにまとめる活動に取り組む必要がある。

③無解答率が高かった記述式の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|---|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 3 二 | インタビューを答えた人物が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、わかったことをまとめて書く。 | 62.2 | 70.2 | 19.8 | 14.3 |

3二 学習指導要領の内容の「話すこと・聞くこと」の問題。本設問は、【インタビューの様子】の、寺田さんと山本さんの発言の中から言葉や文を取り上げて、二人がどのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことを書く必要がある。

無回答率が高かったことから、時間切れで本設問まで辿り着けなかった児童がいることが考えられる。また誤った回答から、インタビューの人物の発言や言葉を取り上げて文章を書くことはできているが、話の内容を捉えることができなかつた児童が多くいたと考えられる。

■小学6年生（算数）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|----------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 16 | 61 | 62.5 |
| 学習 指導 要領の 領域 | A 数と計算 | 6 | 64.8 | 67.3 |
| | B 図形 | 4 | 44.3 | 48.2 |
| | C 変化と関係 | 4 | 72.8 | 70.9 |
| | D データの活用 | 3 | 62.5 | 65.5 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|---|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 3 (4) | 66 ÷ 3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商を十の位に当たる式を選ぶ。 | 39.2 | 47.6 | 3.2 | 3.9 |

1 (2) 学習指導要領の内容の「数と計算」の領域の問題。正答率の差は、-8.4ポイント。「わり算の筆算」については小学4年生で学習する。正答は「60 ÷ 3」だが、商が2であることから「6 ÷ 3」と誤答している児童が36.7%いた。このことから、各段階の商の意味を考えることができていると考えられる。

機械的に筆算をして解を求めるのではなく、商の意味や解き方を説明する取組が必要である。

②正答率が最も低かった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|---|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 2 (4) | テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。 | 15.9 | 20.8 | 2.8 | 4.0 |

2 (3) 学習指導要領の内容の「図形」の領域の問題。本設問中では、底辺はどちらも3.2cmで、テープの幅がどこも同じ長さのため高さが等しいことから、二つの三角形の面積は等しいと言える。ところが、69.3%の児童が二つの三角形の面積は異なる、もしくは比べることができないと回答していた。このような児童は、高さについて具体的な長さが示されていないことから、面積はこのままでは比べることができないと判断していると考えられる。

③無解答率が高かった記述式の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|--|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 4 (3) | 二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く。 | 55.5 | 56.2 | 9.5 | 13.8 |

3 (4) 習指導要領の内容の「データの活用」の問題。本設問は、2つのグラフやそれに伴った説明が2ページに渡って記載されている。指定された3つの言葉を用いて記述式で回答する必要がある。無解答率が高かったことから、時間切れで本設問まで辿り着けなかった児童がいることが考えられる。また、話の内容を正確に捉えることができなかった児童もいたと考えられる。

■中学3年生（国語）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|------------------------|-------------------------------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 15 | 67 | 69.8 |
| 学習 指導 要領の 領域等 | 知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 | 2 | 62.5 | 67.5 |
| | 知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項 | 2 | 61.0 | 63.4 |
| | 知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項 | 3 | 69.8 | 74.7 |
| | 思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと | 3 | 81.4 | 82.2 |
| | 思考力、判断力、表現力等 B 書くこと | 2 | 65.2 | 63.2 |
| | 思考力、判断力、表現力等 C 読むこと | 4 | 61.6 | 63.7 |

【課題のあった問題】

①学習指導要領の内容の「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|--------------|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 3 二 | 漢字を書く（おし量って） | 32.5 | 43.9 | 13.8 | 10.7 |

3二 国語15問中、全国と比べて正答率の差が最も大きく、無解答率も大きかった問題。正答率の差は、－11.4ポイント。文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題。誤答として最も多かったのは「押し」で、そのほかには「進し」や部首間違いであった。漢字の定着については、文章の中ばかりでなく、「話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等との学習や日常の会話の中でも漢字の書きについても意識するよう指導することが大切である。また、実際に書く活動を通して、漢字を正しく用いる態度と習慣とを養うことも大切である。

■中学3年生（数学）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|----------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 15 | 47 | 51.0 |
| 学習 指導 要領の 領域 | A 数と式 | 5 | 61.6 | 63.0 |
| | B 図形 | 3 | 24.4 | 33.2 |
| | C 関数 | 4 | 50.0 | 51.2 |
| | D データの活用 | 3 | 41.2 | 48.5 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|---|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 5 | 女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00未満の階級までの累積度数を求める問題 | 30.7 | 46.1 | 14.8 | 11.0 |

5 学習指導要領の内容の「データの活用」の領域の問題。正答率の差は、-15.4ポイント。「累積度数」については、中学1年生で学習する。

正答率の低さから、学習内容が定着していないことが考えられる。誤答の中には、様々な回答が見られることから、「累積度数」が何を意味しているか理解できていないことが考えられる。具体的な場面が設定された問題を通じて、累積度数をはじめ、相対度数といった言葉の意味を理解することが大切である。

②無解答率が高かった記述式の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|--|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 9 (1) | 2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯覚が等しいことを示すことで証明する問題【記述式】 | 20.8 | 32.1 | 28.3 | 24.7 |

9 (1) 学習指導要領の内容の「図形」の領域の問題。本設問中で、すでに $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ がわかっていることから、 $\angle BCA = \angle EAC$ (条件①) が言える。条件①より、 $BC \parallel AE$ になることを説明することができる。

無解答率の高さから、構想を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できる力に課題が見られる。証明を振り返り、図形の性質を論理的に考察することができるようにすることが求められる。また、観察や操作、実験などの活動を通して、図形の性質を見出すことや、総合的・発展的に考察できるようにすることも必要である。

■中学3年生（英語）

| | | 対象問題数 (問) | 町平均正答率 (%) | 全国平均正答率 (%) |
|-----------------------|-----------------|--------------|---------------|----------------|
| 全体 | | 17 | 40 | 45.6 |
| 学習 指導 要領の 領域 | (1) 聞くこと | 6 | 51.7 | 58.4 |
| | (2) 読むこと | 6 | 46.6 | 51.2 |
| | (3) 話すこと [やり取り] | 0 | | |
| | (4) 話すこと [発表] | 0 | | |
| | (5) 書くこと | 5 | 17.4 | 23.4 |

【課題のあった問題】

①全国と比べて正答率の差が大きかった問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|---------------------------------------|---------|------|----------|-----|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 1 (2) | 道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する | 49.8 | 64.4 | 0.4 | 0.2 |

1 (2) 学習指導要領の内容の「聞くこと」の領域の問題。正答率の差は、-14.6ポイント。正答は1だが、21.6%の生徒が2を誤答で選択していた。このような生徒は、情報を正確に聞き取ること

に課題があると考えられる。
情報を正確に聞き取るためには、抱えている課題が「知識」の側面なのか、それとも「技能」の側面なのかを把握し、個々の課題に応じた支援をしていくことが大切である。

②無解答率が高かった記述式の問題

| 問題 番号 | 問題の概要 | 正答率 (%) | | 無解答率 (%) | |
|----------|---|---------|------|----------|------|
| | | 猪名川 | 全国 | 猪名川 | 全国 |
| 8 (2) | ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。【記述式】 | 11.0 | 19.5 | 36.7 | 29.3 |

8 (2) 学習指導要領の内容の「書くこと」の領域の問題。この問題と同じくロボットについて書かれた英文を読んで答える問題（大問8 (1)）では、正答率が53.4%であることから、社会的な話題について短い文章の要点を捉えることはできているが、社会的な話題に関して読んだことについて自分の考えとその理由を書くことに、課題があると考えられる。

学習指導にあたっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行うことが大切である。

《質問紙調査について》

児童生徒質問紙調査は、調査する学年の児童生徒を対象とした、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。小学生63問・中学生80問の質問項目について調査が行われました。

それぞれ調査項目ごとの猪名川町と全国の回答結果の中から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合が高かったものから、「良好な結果として捉えられる点」を、肯定的な回答の割合が低かったものから、「猪名川町の課題として捉え、今後改善が求められる点」を分析し、以下に挙げています。

【小学校6年生】

良好な結果として捉えられる点

- ・英語への関心。
- ・国語の勉強や読書が好き。
- ・国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている。
- ・学習では今までに学んだことを他の学習へ生かし、自分の考えをまとめる活動を行っている。
- ・地域に親しみを持っている。

猪名川町の課題として捉え、今後改善が求められる点

- ・学校が休みの日に、1日1時間以上、勉強をしている。
- ・ICT機器の活用。

【中学校3年生】

良好な結果として捉えられる点

- ・人が困っているときは、進んで助けている。
- ・今住んでいる地域の行事への参加。
- ・家には、101冊以上本がある(雑誌、新聞、教科書は除く)。

猪名川町の課題として捉え、今後改善が求められる点

- ・国語・数学への関心・意欲。
- ・家庭学習の定着。
- ・自分にとってどのような学習が必要か考え、予習復習への取り組み。

学力向上のための今後の改善方策について

【猪名川町の学力の課題】

令和5年度全国学力・学習状況調査（小学6年生、中学3年生対象）の結果及び過去数年間の同調査の結果、猪名川町学習到達度調査（小学5年生、中学2年生対象）の結果から、猪名川町の児童生徒の学力と学習習慣について、次のような課題があることが判明しました。

- ・国語では、「書くこと」の領域に課題がある。[小学校]
- ・国語では、「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。[小学校]
- ・2教科とも無解答率が高く、記述式問題に課題がある。[小学校]
- ・3教科とも記述式問題に課題がある。[中学校]
- ・「毎日1時間以上、家庭学習している」児童生徒の割合が低い。[小・中学校]

【今後の改善方策】

以上の結果から、以下の改善方策に重点的に取り組み、児童生徒の学力向上に努めていきます。

■授業改善

- ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善支援。
- ・授業力向上や学級づくりのための教員研修の充実。
- ・タブレット端末やICT機器の効果的な利活用。
- ・いなぼう学習タイムによる基礎・基本の定着。
- ・「授業（保育）のユニバーサルデザイン化」の推進。
- ・学生や、地域住民による学校支援ボランティアの派遣。

■家庭学習の定着

- ・放課後学習の充実・拡充。
- ・宿題の量、出し方の工夫や予習復習の推進。